

**研究拠点形成事業
平成25年度 実施計画書**

B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関:	京都大学霊長類研究所
(コンゴ民主共和国) 拠点機関:	生態森林研究センター
(コンゴ民主共和国) 拠点機関:	キンシャサ大学
(ギニア共和国) 拠点機関:	ボツノウ環境研究所
(ギニア共和国) 拠点機関:	ンゼレコレ大学
(ウガンダ共和国) 拠点機関:	ムバララ科学技術大学
(ウガンダ共和国) 拠点機関:	マケレレ大学

2. 研究交流課題名

(和文): チンパンジー属類人猿の孤立個体群の保全に関する研究
(交流分野: 自然人類学)

(英文): Conservation of isolated populations of great apes of the genus Pan
(交流分野: Physical anthropology)

研究交流課題に係るホームページ:

<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/sections/aaspp/index.html>

3. 採用期間

平成 24年 4月 1日 ~ 平成 27年 3月 31日

(2 年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関: 京都大学霊長類研究所

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名): 京都大学霊長類研究所・所長・平井啓久

コーディネーター (所属部局・職・氏名): 京都大学霊長類研究所・教授・古市剛史

協力機関：

事務組織：京都大学霊長類研究所事務部

責任者（職・氏名）：事務長・俣野 正

担当者（職・氏名）：研究助成掛長・植田忠紘

相手国側実施組織（拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。）

（1）国名：コンゴ民主共和国

拠点機関：(英文) Research Center for Ecology and Forestry

(和文) 生態森林研究センター

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

General Director・MONKENGO-MO-MPENGE Ikali

協力機関：(英文)

(和文)

（2）国名：コンゴ民主共和国

拠点機関：(英文) University of Kinshasa

(和文) キンシャサ大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

Faculty of Science・Professor・BEKELI Mbomba Nseu

協力機関：(英文)

(和文)

（3）国名：ギニア共和国

拠点機関：(英文) Environmental Research Institute of Bossou

(和文) ボッソウ環境研究所

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

General Director・SOUMAH Aly Gaspard

協力機関：(英文)

(和文)

（4）国名：ギニア共和国

拠点機関：(英文) University of N'Zerekore

(和文) ンゼレコレ大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

Faculty of Environment・Researcher・BAMAMOU Cece

協力機関：(英文)

(和文)

(5) 国名：ウガンダ共和国

拠点機関：(英文) Mbarara University for Science and Technology

(和文) ムバララ科学技術大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文)

Faculty of Science・Dean・ANGUMA Simon

協力機関：(英文)

(和文)

(6) 国名：ウガンダ共和国

拠点機関：(英文) Makerere University

(和文) マケレレ大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文)

Department of Zoology・Associate Professor・BARANGA Deborah

協力機関：(英文)

(和文)

5. 全期間を通じた研究交流目標

日本の霊長類学は、ヒトのルーツを探ることを目標として、50年以上前から類人猿の野外研究を続けてきた。とくに京都大学霊長類研究所は、ヒトにもっとも近いチンパンジー (*Pan*) 属のチンパンジーとボノボの長期調査地を3か所もかかえ(チンパンジー：ギニア共和国・ボソウ、ウガンダ共和国・カリンズ、ボノボ：コンゴ民主共和国・ワンバ)、霊長類学の国際的センターとなっている。しかし現在、これらの調査地の個体群は、森林伐採や農地開発などによって孤立し、地域住民の森林資源の利用による植生の質の低下、密猟等の違法行為、孤立による遺伝的多様性の低下、ヒトから類人猿への病気の感染など様々な要因によって、存続上の危機にさらされている。本計画では、これらのリスク要因を回避するための自然科学・社会科学的調査・研究を行ってその成果をそれぞれの調査地での保全の実践に生かし、さらにその手法を同様の問題をかかえるアジア・アフリカの様々な類人猿生息地に発信していくことを目標とする。

当研究所は、平成21～23年度にアジア・アフリカ学術基盤形成事業の支援を受けて、コンゴの生態森林研究センター、ギニアのボソウ環境研究所、ウガンダのムバララ科学技術大学とネットワーク型の研究基盤を築いて類人猿の環境適応機構についての比較研究を行ってきた。この結果、日本・アフリカ間のみならずアフリカ側拠点機関の間の交流も深まり、アフリカ側研究者の学術的意識と研究能力も飛躍的に高まった。本計画では、あらたに3つの拠点機関を加えてネットワークの拡充と強化を図り、本研究課題のみならず、

将来様々なテーマの類人猿の比較研究をアフリカ側研究者と協力して行える土俵としたい。また、23年8月にコンゴで行った締めくくりの国際シンポジウムでは、アフリカ側拠点機関から、このネットワークをもとにアフリカ霊長類学会の設立を目指すべきだとの提言があった。日本の主導によってアフリカ霊長類学会を設立するというこの長年の夢についても、本計画の3年間に実現にむけた道筋をつけたい。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

10月25日～11月16日に京都大学霊長類研究所で開催した霊長類個体群の保全に関する研究手法と題したワークショップは、参加研究者リストに記載の研究者18名（うち日本側7名、アフリカ側11名）、その他一般参加者20名の参加を得て成功裏に終了した。長期間のワークショップであったため、アフリカ側研究者に多くの基礎知識、基礎的技術を習得してもらうことができたほか、研究者相互の連帯感が大いに高まり、今後の日本側研究者による指導体制、アフリカ側も含めた7つの研究機関相互の協力体制について確認することができた。また、この3年間の目標を、アフリカ霊長類研究者のコンソーシアムの設立に置くことが合意された。

これに引き続いてコンゴ民主共和国で開催されたアフリカ側研究者の相互訪問では、ウガンダから2名、ギニアから2名の参加を得て、キンシャサ大学と生態森林研究所の訪問、フィールド調査の視察、今後の協力体制についての討論などが行われた。この訪問行事については、前回の3年計画から数えてもはじめて、日本人がだれも参加せず、コンゴ側研究者のみにすべての準備と実施を任せるという形で行った。これが予定通りに成功したことで、アフリカ側研究者たちは大いに自信を深め、来年度予定するギニアでのワークショップの計画について活発な討論が行われた。

日本人若手研究者については、ギニア共和国とウガンダ共和国に各1名が本経費で出張し、またコンゴ民主共和国には他経費で2名が出張して、アフリカ側研究者および現地調査補助員と協力して遺伝的多様性と人獣共通感染症のモニタリングのためのサンプル収集を行った。今後も定期的に日本側研究者が訪れてチェックをする必要があるが、ウガンダの調査地については、日本側研究者の不在中も継続してサンプル収集が行える体制を確立することができた。残念ながらコンゴ民主共和国とギニア共和国については、アフリカ側研究者の体制が整わず継続的サンプル収集を行うまでには至っていないが、これは25年度の交流目標としたい。

7. 平成25年度研究交流目標

※本事業の目的である「研究協力体制の構築」「学術的観点」「若手研究者育成」に対する今年度の目標を設定してください。また社会への貢献や、その他課題独自の今年度の目的があれば設定してください。

24年度に引き続き、日本人若手研究者3名が3か国に各1名ずつ出張し、現地国の研究者と共同研究を行う。長期にわたるデータ収集は、各現地国の研究者に継続してもらうため、研究協力体制の構築を確立する。とくに前年度果たせなかったコンゴとギニアでの継続的サンプル収集体制の確立を目指す。

本年度のセミナーは、12月にギニア共和国で開催する。コンゴ民主共和国2人、ギニア5人、ウガンダ：2人、イギリス1人、日本7人の参加を予定しており、首都コナクリでのワークショップと、ボツワナのチンパンジー長期調査地での現地調査視察を計画している。このワークショップでは、日本・アフリカの各研究者がおのおのの研究成果を報告するとともに、共同研究のプランニングと打ち合わせ、日本人シニア研究者による研究指導などを行う予定である。

また本年度は、研究者交流プログラムもこれにあわせてギニアで開催し、ウガンダ2人、コンゴ民主共和国2人の若手研究者がギニアのボツワナでチンパンジーの観察を行う。これにより、前年度よりさらに研究に対する意識と研究者相互の連帯感が高まり、次年度の最終ワークショップに向けた取り組みが前進するものと期待される。

8. 平成25年度研究交流計画状況

8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成 24 年度	研究終了年度	平成 26 年度
研究課題名	(和文) チンパンジー属類人猿の孤立個体群の保全に関する研究 (英文) Conservation of isolated populations of great apes of the genus Pan				
日本側代表者 氏名・所属・ 職	(和文) 古市剛史・京都大学霊長類研究所・教授 (英文) Takeshi Furuichi・Primate Research Institute, Kyoto University・Professor				
相手国側代表 者 氏名・所属・ 職	(英文) Monkengo-mo-Mpenge Ikali・Research Center for Ecology and Forestry・General Director Bekeli Mbomba Nseu・University of Kinshasa・Professor Soumah Aly Gaspard・Environmental Research Institute of Bossou・General Director Bamamou Cece・University of N' Zerekore・Researcher Anguma Simon・Mbarara University for Science and Technology・Dean Baranga Deborah・Makerere University・Associate Professor				
参加者数	日本側参加者数	16名			
	(コンゴ民主共和国)側参加者数	15名			
	(ギニア共和国)側参加者数	7名			
	(ウガンダ共和国)側参加者数	16名			
25年度の 研究交流活動 計画	昨年度に引き続き、日本人研究者が3つの相手国に出張して、現地国の研究者と共同して、遺伝的多様性と人獣共通感染症に関するモニタリングと研究を継続する。日本人研究者が不在の場合でも、各現地国の研究者がデータ収集を継続できるような環境を整備する。また、各調査地におけるアフリカ側研究者の独自の調査研究活動を支援し、自律的な研究活動と成果発表がおこなわれるようにする。本年度現地調査を行わない参加研究者も、電子メールなどで連絡を取りながら、それぞれの本国でデータの分析、討論、論文の執筆を行う。				

25年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	初年度には、ウガンダで、日本人の不在中も遺伝的多様性と人獣共通感染症のモニタリングに用いる糞試料を収集する体制を確立したが、本年度はこれをコンゴ民主共和国とギニア共和国でも確立する。また、アフリカ3国でそれぞれの研究者が独自に立案した研究が軌道に乗ることが期待される。
---	--

8-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「霊長類個体群の生態と保全に関する研究」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “Ecology and conservation of primate populations“
開催期間	平成 25 年 12 月 16 日 ~ 平成 25 年 12 月 25 日 (10 日間)
開催地 (国名、都市名、会場名)	(和文) ギニア共和国、コナクリ (会場未定) およびボッソウ (ボッソウ環境研究所) (英文) Guinea, Conakry, Bossou
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 古市剛史・京都大学霊長類研究所・教授 (英文) Takeshi Furuichi・Primate Research Institute, Kyoto University・Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) SOUMAH Aly Gaspard・Environmental Research Institute of Bossou・General Director

参加者数

日本 〈人／人日〉	A.	5/ 40
	B.	2
ギニア 〈人／人日〉	A.	5/ 35
	B.	10
コンゴ 〈人／人日〉	A.	2/ 10
	B.	
ウガンダ 〈人／人日〉	A.	2/ 10
	B.	
英国 (日本側参加研究者) 〈人／人日〉	A.	1/ 20
	B.	
合計 〈人／人日〉	A.	15/ 105
	B.	12

- A. 本事業参加者（参加研究者リストの研究者等）
 B. 一般参加者（参加研究者リスト以外の研究者等）

セミナー開催の目的	<p>本事業のメインテーマである遺伝的多様性と人獣共通感染症に着目した類人猿の孤立個体群の保全に関する研究の進捗状況の報告と今後の研究に対する討論を行う。また、各研究者が独自に行っている霊長類の生態と保全に関する研究の成果を報告するとともに、共同研究のプランニングと打ち合わせ、日本人シニア研究者による研究指導などを行う。首都コナクリでのワークショップのうち、何人かの研究者がボッソウのチンパンジー調査地に赴き、現地で行われている研究について学ぶ。</p>
-----------	--

期待される成果	<p>セミナーの開催によって、本事業のメインテーマである類人猿孤立個体群の保全に関する研究が推進される。また、日本とアフリカの若手研究者が独自に行っている研究について報告し、将来の共同研究について相談を行うことで、研究者間のネットワークの形成と若手研究者の成長を期待することができる。</p>										
セミナーの運営組織	<p>セミナーの計画は、ギニアで研究を行う日本側研究者とギニア側研究者が共同で作成するが、実際の運営はギニア側研究者が行う。</p>										
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	<p>内容</p> <table border="0" data-bbox="948 1128 1385 1312"> <tr> <td>外国旅費</td> <td>2,476,000 円</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td>95,000 円</td> </tr> <tr> <td>消費税等</td> <td>129,000 円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,700,000 円</td> </tr> </table>		外国旅費	2,476,000 円	謝金	95,000 円	消費税等	129,000 円	合計	2,700,000 円
	外国旅費	2,476,000 円									
	謝金	95,000 円									
消費税等	129,000 円										
合計	2,700,000 円										
(ギニア) 側	<p>内容</p> <table border="0" data-bbox="699 1417 1385 1503"> <tr> <td>国内旅費</td> <td>金額</td> <td>200,000 円</td> </tr> </table> <p>(ギニア側参加者のコナクリ・ボッソウ間)</p>		国内旅費	金額	200,000 円						
国内旅費	金額	200,000 円									
(-) 側	<p>内容</p>										

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣時期	用務・目的等
Research Center for Ecology and Forestry Director of Science Batuafe Baanza Jacques	Guinea Bossou Environmental Research Institute of Bossou	2013 年 12 月	研究活動の視察、共同研究の打ち合わせ
University of Kinshasa PhD student Simon-Pierre Ndimbo Kumogo	Guinea Bossou Environmental Research Institute of Bossou	2013 年 12 月	研究活動の視察、共同研究の打ち合わせ
Kabale University Lecturer Adalbert Omuchunguzi	Guinea Bossou Environmental Research Institute of Bossou	2013 年 12 月	研究活動の視察、共同研究の打ち合わせ
Makerere University Assistant lecturer Moses Chemurot	Guinea Bossou Environmental Research Institute of Bossou	2013 年 12 月	研究活動の視察、共同研究の打ち合わせ

9. 平成25年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	英国 (日本側) 〈人/人日〉	コンゴ 〈人/人日〉	ギニア 〈人/人日〉	ウガンダ 〈人/人日〉	合計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		()	1/ 60 (4/ 390)	6/ 75 (2/ 20)	1/ 30 (3/ 270)	8/ 165 (9/ 680)
英国(日本側) 〈人/人日〉	()		()	1/ 20 ()		1/ 20 (0/ 0)
コンゴ 〈人/人日〉	()	()		4/ 30 ()	()	4/ 30 (0/ 0)
ギニア 〈人/人日〉	()	()	()		()	0/ 0 (0/ 0)
ウガンダ 〈人/人日〉	()	()	()	4/ 30 ()		4/ 30 (0/ 0)
合計 〈人/人日〉	0/ 0 (0/ 0)	0/ 0 (0/ 0)	1/ 60 (4/ 390)	15/ 155 (2/ 20)	1/ 30 (3/ 270)	17/ 245 (9/ 680)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は()をのぞいた人数・人日数としてください。)

9-2 国内での交流計画

0/0 〈人/人日〉

10. 平成25年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	0	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	6,952,000	
	謝金	190,000	
	備品・消耗品購入費	100,000	
	その他経費	0	
	外国旅費・謝金等に係る消費税	358,000	
	計	7,600,000	研究交流経費配分額以内であること
委託手数料		760,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合計		8,360,000	